

3歳児の事例に学ぶ

計画的な環境轉変

雪遊び



ソーセージ

スケッパー



A鬼

〔写真A〕

この道具はスケッパーです。砂遊びの道具として準備している園が多いと思います。用途は様々で、切る・混ぜる・集める...。「バーベキュー！」と盛り上がっていた子供たちが焼いていたのは、そう、ソーセージ。用途がもう一つあったということをお子に教わりました。ソーセージをどうやって作ったのか、もう分かりましたね？

雪が積もった朝のわくわく感、多くの大人に残る、子供時代の大切な記憶の一つでしょう。白い息を弾ませながら園庭を駆け回る子供たちの姿が、今年も冬の訪れを告げています。それぞれの幼児教育施設の方では、きつと、雪と一緒にきらきらと目を輝かせて登園する子供たちを迎えるため、今年の冬に合わせた環境構成をあれやこれやと始めている頃だと思えます。

さて、雪と言えどどんな遊びの事例を語れますか。子供は、環境に自ら関わりながらやりたい遊びのイメージを膨らませます。例えば、べた雪か粉雪か、気温や風はどうか大雪かさらつと積もつただけか、降り続けているのか太陽の光が差しているのかなど、気象条件も子供を誘う環境の一つとなります。また、「イメージを膨らませる」ということは、過去の経験や知識と今目の前で起きていることをつなげながら、その子なりに「新しい意味」を生成している過程とも言えるでしょう。

写真Aは、だいが雪が少ない日でした。雪で遊ぶうとすると勝手に土が混じります。A児は雪を丸めながら「あんこもち」と呟きました。お正月にいっぱい食べたのかもしれないし、最近読んだ絵本「ばばあちゃんのおもちつき」のことを想起しているのかもしれない。あつちにいい道具たくさんあるよ」と

道具置き場には何種類もの筆や刷毛が置いてありました。冬の道具に欠かせないものの一つなのです。雪堀りをしていたB児が、その筆と刷毛を使っています。どうやらチヨコを使った洋菓子のようです。



刷毛

傍にいた保育者が声をかけました。ちょうど昨日、先生たちで「冬の遊び道具」を整理したばかりだったのです。道具置き場から戻ってきたA児が手にしていたものは、網でした。網をのせる土台は保育者が提案しました。網がただ地べたに置かれるよりも、網の下に空洞ができるように置かれた方がいいと、A児のイメージを保育者は捉えたのです。A児は、あんこ餅を網に並べると、乾いた色のいい落ち葉を園庭の端から見つけてきました。びりびり割り、餅の上にそっと添えるA児。雪の少ない日だからその素材です。土まみれの真つ黒雪玉と真冬の落ち葉は「トッピング付きあんこ餅でしかも焼き立て」と、A児によって意味が付与されたのです。



お玉

C

カップ



C児たちは、大きなタライで型をとった特大のスポンジケーキに、カップやお玉で飾り付け。「絵の具」はとても楽しく、なかなか難しい素材とも言えます。特に雪は真っ白ですから、色は非常に映えます。絵の具を出すタイミングによっては、雪の楽しみ方や関心事が一気に変わってしまうたり、周囲の遊びに思わぬ影響を及ぼしたりすることもしょなくあります。時期やタイミング、提供場所、素材の種類や量等々、先生の作戦会議は必須です。

お散歩で見つけた秋素材は、一年中大活躍。計画的な環境構成の一つです。

右の2次元コードを読み取るか
クリックで回答をお願いします



です

発行元
お問合せ先

山形県教育局義務教育課

☎023-630-3416

 kuraokat@pref.yamagata.jp

※1・本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用

